発行者
藤崎町老人クラブ連合会
広報委員会
藤崎老人福祉センター内
電話　七五―三二三二

第52回全国老人クラブ大会 秋田大会
感激の共有に感謝

藤崎町老連副会長　木村美智子

「のばそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」をメインテーマに、秋田市で開催された全国大会に、藤崎町老連から、舘山会長以下 山内・木村・神・加福・吉田・佐々木・高木の8人が参加した。会場の「秋田芸術劇場ミルハス」は、秋田杉をふんだんに使用した会場であった。資料は手作りの手提げ袋に入れられ、参加会員分を皆で協力し制作した物で、参加者からは称賛と感謝の声が聞かれた。

11月8日㈬、第一部は式典と表彰式。全老連会長の村木厚子氏は挨拶で「老人クラブの中だけで活動するのではなく、社会の一員として、地域の方々と共に行う活動」と述べた。（活動発表でも取り上げられた）

表彰式は育成功労表彰120名、優良老人クラブ表彰50クラブ、優良老人クラブ連合会表彰49連合会、永年勤続表彰21名が受賞された。来賓の祝辞をいただき、大会宣言を読み上げ式典を終了。

第二部は秋田県老連が「生きがいと健康づくりの一環として行っている芸能活動の発表『老人クラブ文化祭』」に笑いと感動で場内が一つに揺れた。舞台の上の熱気は、私たちだってやれば何か変わるかもしれない、帰ったらこのことをみんなに知らせようという気にさせてくれるものであった。参加10団体のいずれも郷土愛に溢れ、熱演が続いた。〝秋田県民歌〟地元作曲家成田為三の〝浜辺の歌〟。会場一杯の手拍子の中、嫁入り行列を模しての〝秋田長持唄〟と〝秋田おばこ節〟の唄と踊り、対話劇〝老人クラブ会員は「どうする？どうする？」等々。

この文化祭の特徴は二つあって、一つは、発表グループは人数が10人以上であること、もう一つは、1ステージ八千円の出場料が必要だということである。この活動を通して会員同士の友好関係が深まり、孤立する者がいなくなった。地元の文化的素材にも目が向くようになり、その良さに気づくようになった。笑いと励ましのある練習で、自信と体力がつき、健康と内面からの美しさを得ることができた等々。

その成果が今回の全国大会で如何なく発揮され、メインテーマである「のばそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」に表れていた。舞台最後の寸劇〝令和ばんば舞〟は市町村老連を越えての共同発表で、最高年歳から最若年歳の今回の最多人数の舞台である。地元秋田で普段野良仕事で働きづめの老人達が、一度東京見物に皆で行こうと考えて、全員で出かけるが思うに任せず、結局ふるさと秋田が一番だと帰ったら、秋田のミルハスで全国老人クラブの集まりっこがあって、それはそれは楽しいものだという内容であった。心を一つに合わせ全員が杖っこ付いて音楽に合わせ舞台狭しと踊る？場面は圧巻であった。

二日目の9日㈭は〝みずほ教育福祉財団〟から「地域支え合い応援事業」と活動の紹介があった。

パネルディスカッションは「地域支え合い活動を広げよう！」のテーマに秋田県潟上市・神奈川県・山口県萩市、三団体の発表があり、最後に、池田昌弘コーディネーターから「支え合いは子供から我々の年代まで年齢を越え支え合うところに地域活動の輪が広がるのでは」との話があった。

次回の大会開催地神奈川県川崎市から参加の呼び掛けがあり、無事今回の大会を終了いたしました。

今回の大会を通じ、参加者（青森・弘前・十和田・板柳・藤崎）の交流と地域を越えた友情が芽生えたのではないかと思っている

秋田県老連の「秋田長持唄・秋田おばこ節」

藤崎町老連から参加した方々（秋田市芸術劇場ミルハス）

○弘前レンガ倉庫美術館

大巻伸嗣氏の「地平線のゆくえ」

県内の風物・自然・信仰の形などを取材した結果をもとに到達した県独自の死生観をテーマとした展覧会であり、世界の存在そのものと静かに向き合う、時空間の展覧会であった。不思議な静謐（せいひつ）感が感じられた。

「青森曼荼羅」

遺跡・美術館・史跡
朝日町延寿会研修旅行

令和5年5月24日㈬ 五月晴れ

参加者14名、自己負担二千円、町福祉バス利用。

大森勝山遺跡・弘前レンガ倉庫美術館・藤陣（昼食）・堀越城跡（しろあと）・サンフェスタ石川（お土産など）。大変有意義な研修旅行であった。

○大森勝山遺跡

岩木山北麓。世界遺産の一部をなす。縄文期の山岳地帯の生業と精神性が読み取れるという、大規模な環状列石（未完成？）であり、岩木山を間近に仰ぎ見る開放的な遺跡であった。

○堀越城跡

天正十九（一五九一）年豊臣秀吉より津軽の領地安堵を得た弘前藩初代藩主津軽為信が居城を大浦から堀越へ移した文禄三（一五九四）年頃の城跡を発掘復元したものである。史跡津軽氏城跡の一部として国が史跡指定している。写真は三の丸展望デッキよりの本丸・三之丸跡遠望。

町老連・中南郡老連 芸能発表会のお知らせ

一、日　時　12月22日㈮　10時～12時30分
二、会　場　藤崎町文化センター大ホール
三、出場者　中南郡（大鰐町・田舎館村・西目屋村・藤崎町）の老人クラブ会員が出演
四、その他　入場料　無料です。

※抽選会　観覧者には沢山の賞品を用意しています。
※プログラムは12月15日発行の「広報ふじさきお知らせ号」に折込で配付します。
お誘い合わせの上、多数の方々の観覧をお願い致します。

※バス巡回経路について

往路　常盤老人福祉センター発　9時⬇　水木⬇　福舘⬇久井名舘⬇　榊⬇　中島⬇　矢沢⬇　文化センター着　9時30分
復路　文化センター発　13時⬇　その後の経路は往路の逆順で巡回します。　常盤老人福祉センター着　13時30分

12月行事予定表

日	曜	行事	時刻
1	金		
2	土	レクダンス部	9:00
3	日		
4	月	**役員会**	**10:00**
		芸能部	12:00
5	火	囲碁・将棋部	12:30
6	水		
7	木	囲碁・将棋部	12:30
8	金		
9	土	レクダンス部	9:00
10	日		
11	月	生け花部	10:30
		芸能部	12:00
12	火	囲碁・将棋部	12:30
13	水	茶道部	13:00
14	木	囲碁・将棋部	12:30
15	金		
16	土	レクダンス部	9:00
		ふじ健大OB会	11:00
17	日		
18	月	芸能部	12:00
19	火	囲碁・将棋部	12:30
20	水	**広報委員会**	**13:30**
21	木		
22	金	**中南郡老連芸能発表会**	**10:00**
23	土	レクダンス部	9:00
24	日		
25	月	芸能部	12:00
26	火	囲碁・将棋部	12:30
27	水	生け花部	9:00
		茶道部	13:00
		【白寿】配布日	16時⇨
28	木		
29	金	年末休業	
30	土	〃	
31	日	〃	

東町シニアクラブチーム 全国ユニカール大会で優勝

令和5年9月16日徳島県で「第77回全国レクリエーション大会2023 inとくしま」が開催されました。その大会の種目別競技「第26回全国ユニカール大会」に於いて「青森ふじチーム」が11年ぶり2度目の優勝をすることができました。

チームは三人で構成。東町シニアクラブの加福孝二・加福哲三・清野正廣の三人です。

前回の優勝から2年後にメンバーを組み換えすることになり試合に臨(のぞ)んでみたが、県大会でもなかなか勝つことが出来なかったので、もう一度全国優勝したいとの思いから、今年の全国大会前に元のメンバーに戻し大会に出場することにしました。

まずは予選リーグを勝って決勝トーナメントに行くことを目標に試合に臨み、見事決勝トーナメントに駒を進めました。決勝トーナメントの準決勝では以前に優勝したことのある難敵の三重県チームとの対戦になりました。第1エンドに2点を先取され、不利な状況から頑張り、第2エンドで直ぐに2点取返したことが相手に非常に大きなダメージを与えたと思います。第3エンドにも1点を取り、有利な状況になり5対3で勝つことができました。決勝戦は勢いそのままに福岡県チームに4対1で勝利し、優勝を飾ることが出来ました。全国大会では連続優勝したチームが無いので、来年も連覇を目指し頑張りたいと思います。

ユニカールはスウェーデンで考案され、陸上版のカーリングとも言われており、老若男女が楽しめる生涯スポーツです。頭を使う競技なので脳トレになり、ボケ防止にもなります。是非、一度は体験してほしいと思います。

全国大会優勝　（左から清野・加福孝・加福哲）

練習日は左記のとおりです。

スポーツプラザ藤崎では㈬・㈮　午後7時～9時まで、常盤コミュニティーセンターでは、㈪・㈭の午後2時～4時まで行っています。

連絡先　☎ 75－三四〇一　加福哲三

常盤ひとり旅

第八回

石澤清五郎

（前月より続き）

拝殿には太鼓、ローソク立、御幣等神社としての必需品が所狭(せまし)と並らべられていたが、厄除(やくよけ)記念品が多かった。ところが、この厄除記念品も中央公民館が指導し、村全体の実行委員会が組織され、一堂に会して実施するようになってからは少なくなったという。「かつての美風が消えて行くのは寂しい」と崇敬(すうけい)会長小山内瞭二が語っていた。鴨居(かもい)と天井の空間には、昔から絵馬が飾られていたものだが、現在は八幡宮に関係のある記念写真展示場となっている。数ある写真の中の一枚、第二鳥居新建奉納式（平成七年十一月二十六日）の写真に、当時私が常盤地区コミュニティ活動推進協議会長（俗称部落会長）の任にあった関係で、地区民を代表して私も顔を出していたのが入口見返りの場所に掲げられていたのには恐れいった。何時(いつ)の時代まで展示されるかは世の変遷にもよろうが、この世に居る間は良心をとがめる行為は出来ないと心に刻んだ。

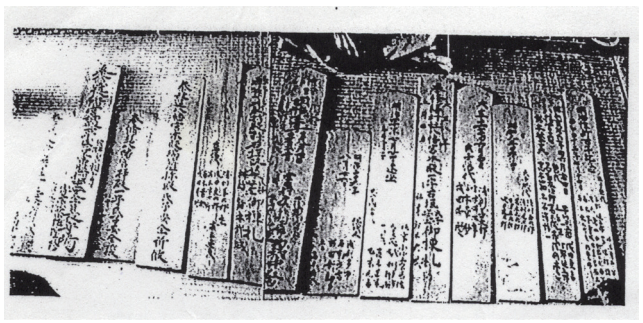
残されてある絵馬の部類として変わったものに「誓永禁酒昭和六年十一月一日、浅利平内」とあり、真ん中に酒杯に大きな鍵をかけた絵の額である。浅利平内は〝牛若〟という四股名で大相撲に入門したが酒におぼれる日が多く、名声なく引退し帰郷してからその額を見たところ、鍵にヒビが入っており、「これは、神が禁酒の誓いを解いて人生を楽しみなさい」というお告げだろうと再び杯を手にしたという。

奥の院は四尺に二尺で、昭和五十六年十月九日敬宗会役員会の承認を得て、浅利亮一、石動武己立会の上、御本尊様にお会いすることが出来た。その時の模様を日記から抜粋すると「二礼二拍手一礼で錠に手をかけたが開かない。再拝したがなお開かず、立会人達から「番人には会いたくないと拒否されてるだろう」とヤジが出る。十数分にして首を入れることができた。すだれが下り奉納新風会と会員の名前あり、白布に包まれた棟札(むなふだ)十四枚、明治十年以前のものはなかった。その一部を紹介すると、

安政二乙卯(きのとう)年（一八五五）神社微細由緒調書上(ゆいしょしらべかきあげ)（一七五四）、明和六己丑(つちのとうし)（一七六九）九月、文政九丙戌(ひのえいぬ)年（一八二六）八月、天保十四年癸卯(みずのとう)年（一八四三）八月と書かれてあるが……

左に日の丸の旗二本、紫の幕があり、八咫鏡(やたのかがみ)、その奥に御神体が畳の上に安座していた。（この畳、三上正次他三名の厄除記念で小野勇助の作だという）これが誉田別命(ほむたわけのみこと)（ホンダとも称している図書もある）様かと息のかからないようにとハンカチを口にくわえ、最敬礼で二礼二拍手一礼してお別れした。

（御神体の詳細を記すと、ご本尊に失礼にあたるので略す）」



常盤八幡宮奥の院と棟札

◇歯なしの話 141◇

佐藤　透

加齢

歳を重ねることによって種々の障害を覚える事がある。髪の毛は抜ける・白髪が目立つ・へたる。目は老眼になり、新聞が読みづらくなる。私は近眼なので眼鏡を外すと小さな文字なども見える。歯科医師という職業柄便利な目であるが、以前より黄斑変性症が見られると言われていた。片方なのでもう一方で修正して見ているらしい。眼科医院へ通ったが、余り有効な治療はないらしく行く度に検査して終わりであるが、二時間ドラマの最後が分らないと言われるので、ビデオに録画することにしている。

「年寄りの戯言(ざれごと)」（笑い）……

まだ年寄りではないが、先輩たちに失礼か!!

が有効との情報があるので考えて見たいと思う。

ここの所、よく耳にするのは、白内障の手術をしていたという方達である。かなり良くなるらしい。冗談だが余り見え過ぎて見えなくてよいものまで見えて困る……など（笑い）。更に耳である。私事ではあるがジワジワと聞こえが悪くなった。テレビの音量も家内に指摘される始末である。かなりウルサイらしい。更に更に患者さんの中には膝・肘・股関節・腰等々の手術をする人のなんと多いことか！。私事であるが、二階に寝所があるので、毎日何回となく一・二階を往復する。そこで最近、以前に比べて筋力の低下からか少々億劫(おっくう)になってきたので、階段に手すりをつけた。これはかなり有効であって夜中に一階のトイレに行くときなど助かっている。御多分に洩れず70歳を過ぎた老歯科医師は段々と老いを感じつつ、日々どこまで頑張れるのか試していて、同じ歳の家内と食事を楽しく・楽しく頂いている。まあ、食事が美味である内は、まだ老いも駆け出しか？（笑い）。また、幸いなことにもう一つ。我々夫婦は睡眠に関しては何事もなく二人とも実によく眠るのである。テレビで眠られないなどの放送もあるが、二人とも笑いながら我が家には当てはまらないと会話している。このよく眠れることは幸いである。知り合いの方達は睡眠剤を飲んでいたが、その必要はなく、二時間ドラマの最後が分らないと言われるので、ビデオに録画することにしている。

◇◇川柳◇◇

おばさんは心の中にサスペンス　田　中さち子

友情が何処まで続くサスペンス　成　田　波　麻

予想外キャンセル穴場家族旅行　佐々木トミエ

静かだと思えば二人夢の中　木　村　羊　川

すぐお金つかめてやめぬ闇バイト　清　水　川　魚